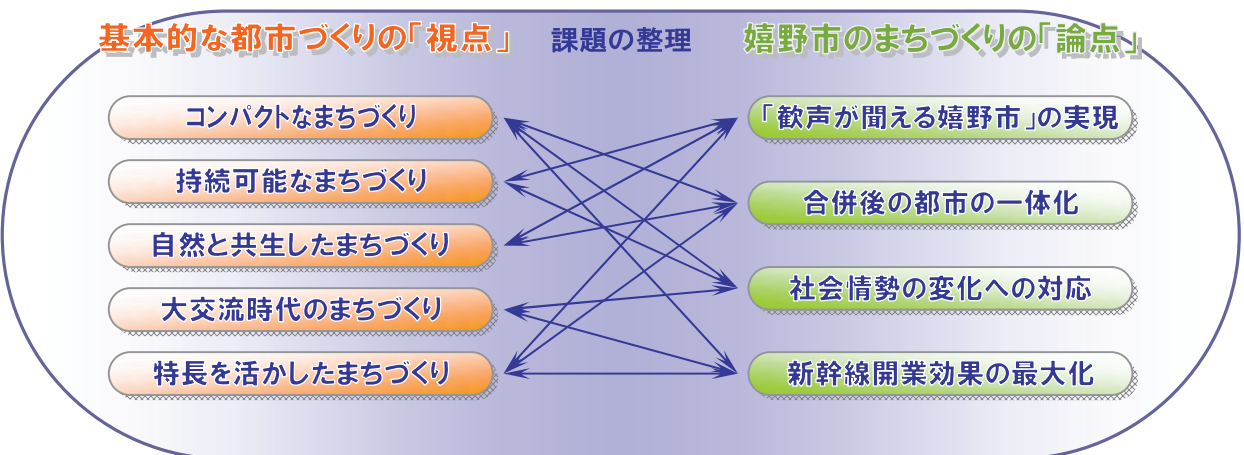
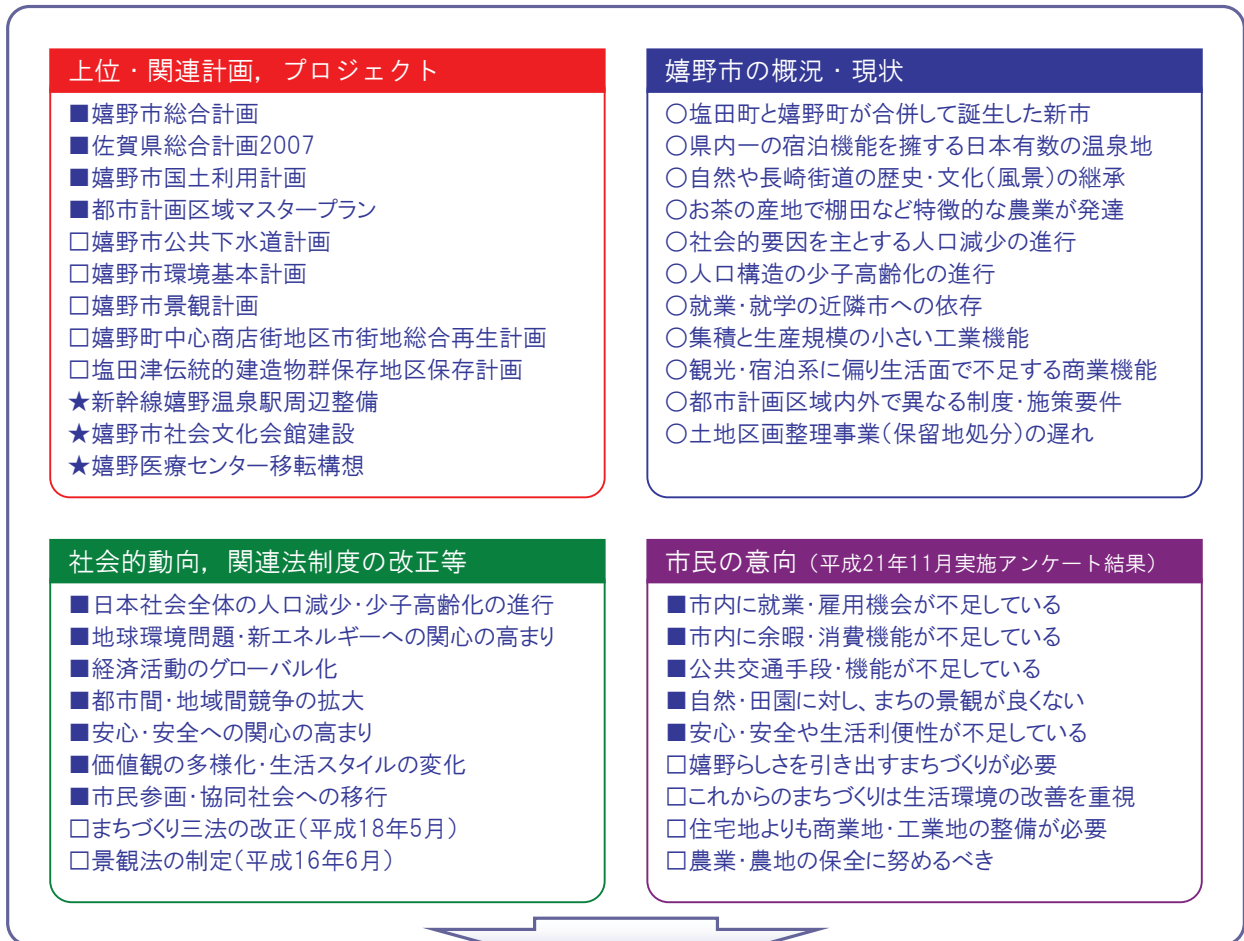


第2章 まちづくりの基本的課題

2-1 課題整理の流れ

嬉野市都市計画マスタープランは、整備・開発・保全の方針という都市計画上の基本的な位置づけられるとともに、嬉野市のまちづくりの指針としての役割を担います。

したがって、その策定にあたり、社会的動向や関連法制度の改正等に基づく「都市づくりの視点」と、嬉野市の概況・現状、上位・関連計画やプロジェクト、市民の意向を踏まえた嬉野市独自の「まちづくりの論点」から、まちづくりの課題を整理します。



2-2 論点別の課題解決の方向性

論点 I

「歓声が聞こえる嬉野市」の実現

嬉野市総合計画では、将来像を『歓声が聞こえる嬉野市』と定め、嬉野市ならではの特性を活かした地方の時代にふさわしい個性的なまちづくりと、市民が夢と希望を持って住み続けることができるまちづくりを進めるとしています。

また、まちづくりの基本方針（施策の大綱）として「世代をこえて住み続けるまち」「個性輝く魅力あふれるまち」「活力ある自治先進のまち」「みんなで創る自立のまち」を設定しています。さらに、目標年次（平成29年）の人口を28,800人と設定し、少子化対策や生活環境整備、企業誘致等の施策に取り組むとともに、人と自然が共生できる土地利用を図りながら、その実現を目指しています。

しかしながら、現状における嬉野市は、人口構造の少子高齢化の進行とともに、主に社会的要因によって人口の減少傾向が続いています。また、都市の産業・経済規模が小さく、就業機会（生産機能）や消費機会（商業機能）が不足していることから、就業者や消費者の市外流出等によって都市活力の低下が進んでおり、歴史・文化を継承し、安心した暮らしを支え合う地域コミュニティの維持が困難になっています。

したがって、「歓声が聞こえる嬉野市」の実現に向け、「持続可能なまちづくり」、「自然と共生したまちづくり」、「特長を活かしたまちづくり」、「安心安全のまちづくり」を視点として、嬉野市に必要な課題解決の方向性を次のとおり設定します。

〈視 点〉	〈課題解決の方向性〉
持続可能なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○人口の減少傾向の抑制と少子・高齢化する人口構造の是正 ○本市で暮らしを営む上で必要な基礎的都市機能の維持 ○市民が参画できる社会の環境づくり
自然と共生したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○塩田川及び流域の環境・景観の整備・活用 ○農林業及び農地・森林の保全と活用 ○生活に身近な自然や緑の環境の充実
特長を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○嬉野温泉の集客力の有効活用 ○長崎街道の歴史的景観・文化資源の活用 ○茶畑・棚田の文化的景観（風景）の活用
安心安全のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会を支えるコミュニティの形成・維持 ○住み続けられるための安心の生活環境整備

論点Ⅱ

合併後の都市の一体化

嬉野市は平成18年1月1日に共に長崎街道沿いに発展してきた旧町制の嬉野町と塩田町が合併して市制施行した都市です。

嬉野市総合計画では、先人が培ってきた嬉野町と塩田町それぞれの特長を活かし、嬉野市として個性あるまちづくりが掲げられており、北部九州有数の温泉地を有する嬉野町と、長崎街道の宿場町の古い町並みや農の風景を残す塩田町の一体化は、観光立国を目指す我が国の政策とも一致する本市の重要な施策となります。また、塩田川流域という共通する条件によって、文化・交流、環境・景観、防災、福祉など、都市全体で取り組むべき課題が多く存在します。

その解決には、旧行政区域における都市計画区域・用途地域指定区域の有無によって異なってきた土地利用等の法制度・要件の整理や、道路や公園、排水処理施設などの社会資本整備に関する施策・事業等の重複や整備水準の地域格差の解消など、都市計画の役割が重要となります。

したがって、合併後の都市の一体化に向け、「コンパクトなまちづくり」、「自然と共生したまちづくり」、「特長を活かしたまちづくり」、「安心安全のまちづくり」を視点として、嬉野市に必要な課題解決の方向性を次のとおり設定します。

〈視 点〉	〈課題解決の方向性〉
コンパクトなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能の重複・分散状況の是正 ○都市機能立地や都市活動機会の集約化と拠点形成 ○都市機能・サービスや都市活動機会へのアクセス性の向上
自然と共生したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○塩田川や唐泉山など両町に共通する自然資源の活用 ○水と緑を活かした生活環境の形成 ○田園居住における自然保全と生活向上の両立
特長を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力の発掘・活用に向けた取り組みの検討 ○嬉野温泉と塩田津の歴史・文化資源の連携 ○「うれしの茶」や焼き物などを活かした新しい地域創造
安心安全のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○塩田川流域の特徴を踏まえた総合防災対策の構築 ○官民が一体となった地域連携型の防災体制の整備

論点Ⅲ

社会情勢の変化への対応

人口減少・超高齢社会の到来や、経済のグローバル化における我が国の相対的地位の低下、地球環境問題や安全・安心への意識の高まりなど、都市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。特に地方圏の都市については、首都圏など経済的に豊かな地域との都市・地域間格差はますます広がっており、産業構造も中国をはじめとする新興国と競合するなど、経済的に厳しい状況にあります。

その一方で、経済が急成長しているアジア各国では、旺盛な消費拡大とともに海外旅行者も大幅に増加しており、我が国においても、外国人観光客を取り込むことで、従来までの輸出産業に替わり、地域資源を活かした新たな分野での成長が期待されます。

このような情勢において、嬉野市は、卸売・小売業などの商業や製造業などの工業の規模が小さく、戦後の経済成長期においても、国家レベルの社会資本整備や産業振興といった国土開発の面で後塵を拝してきたため、厳しい都市・地域間競争に晒されています。また、水田や茶畑などの美しい農の風景、歴史ある温泉、古い町並みがなどの地域資源を有するものの、都市形成や観光振興における資源の連携・相互活用は十分ではなく、さらに、山間地域においては高齢化の進行によって地域の共同体の維持が困難になるなど、地域資源の基盤である風土の保全・継承も困難になっています。

したがって、社会情勢の変化への対応に向け、「コンパクトなまちづくり」、「持続可能なまちづくり」、「大交流時代のまちづくり」、「人にやさしいまちづくり」、「安心安全のまちづくり」を視点として、嬉野市に必要な課題解決の方向性を次のとおり設定します。

〈視 点〉	〈課題解決の方向性〉
コンパクトなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能や土地利用の拡散の抑制 ○既存の都市機能・集積の有効活用 ○既存市街地の再生・活性化
持続可能なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少と少子高齢社会に対応した生活環境づくり ○環境負荷の軽減に向けた公共交通の活性化 ○風土を守り育てる条件や環境、体制の整備
大交流時代のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○広域的圏域からの交流人口の受け入れ環境・基盤の整備 ○観光振興に向けた歴史・文化資源の発掘・活用 ○嬉野らしい生活文化に根ざした個性・魅力づくり
安心安全のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の広域圏化に対応した安全な都市活動環境の整備 ○住み続けられるための安心の生活環境整備（再掲）

論点Ⅳ

新幹線開業効果の最大化

九州新幹線西九州ルート建設及び嬉野温泉駅の設置は、優れた観光資源を有する嬉野市において、新たな観光需要の掘り起こしが期待されます。嬉野温泉駅には1時間に上下各1本程度の停車が予定されており、広域圏からの移動利便性が飛躍的に向上し、これまで鉄道駅が無かった嬉野市の都市構造や社会環境を劇的に変化させることとなります。

しかしながら、同じく新幹線駅を設置する肥前山口駅や武雄温泉駅が、在来線と接続し、利用環境の優位性を有しているため、嬉野温泉駅の拠点性は相対的に低くなるものと想定されます。塩田町については、国道498号で結ばれている武雄温泉駅と乗降客が競合する可能性があり、鹿島市や太良町など新幹線ルートから外れた周辺都市についても、嬉野温泉駅の駅勢圏に取り込むには、道路などのアクセス機能が不足している状況にあります。

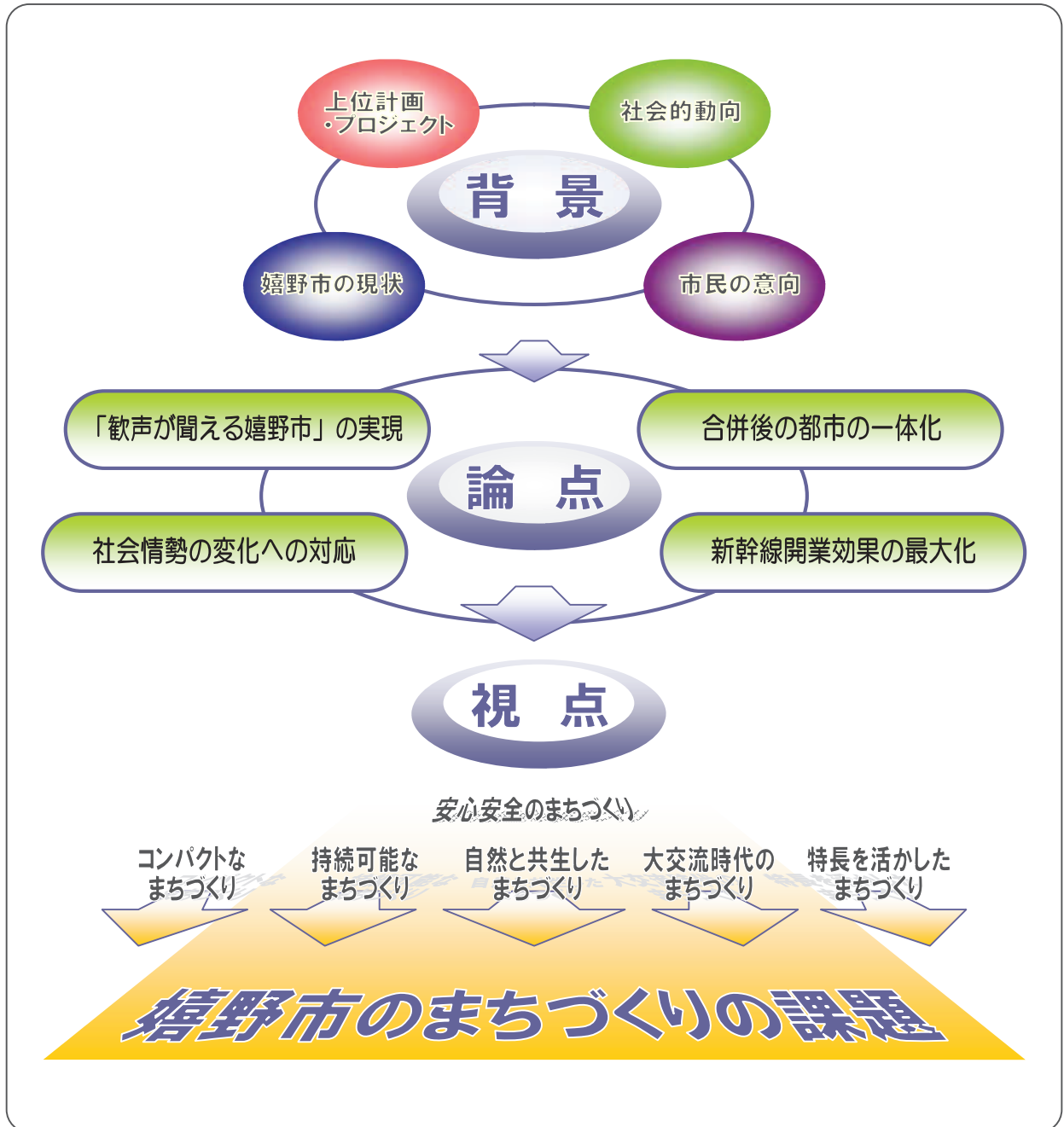
さらに、新幹線は嬉野温泉への交通手段としての利用が期待される一方で、駅周辺の開発ポテンシャルが高まることで、既存市街地からの都市機能や都市活動主体が流出し、市街地の空洞化が進む可能性もあります。また、新幹線ネットワークで広域圏とつながることから、福岡市へのストロー効果をはじめ、消費や産業の市外流出も懸念されます。

したがって、新幹線開業効果の最大化に向け、「コンパクトなまちづくり」、「大交流時代のまちづくり」、「特長を活かしたまちづくり」、「安心安全のまちづくり」を視点として、嬉野市に必要な課題解決の方向性を次のとおり設定します。

〈視 点〉	〈課題解決の方向性〉
コンパクトなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○嬉野温泉駅周辺の交通（交流）拠点性強化 ○嬉野温泉駅と市内外各地とのネットワークの強化 ○新幹線需要を呼び込む集客拠点づくり
大交流時代のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○人・財の流入を促す広域交流に対応した都市機能の整備 ○嬉野温泉駅利用拡大に向けたビジネス・観光需要の創出 ○嬉野温泉駅を中心とした周辺都市とのネットワークの強化
特長を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○嬉野温泉市街地や塩田津伝建地区における観光機能の強化 ○観光振興に向けた歴史・文化資源の発掘・活用（再掲）
安心安全のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の広域圏化に対応した安全な都市活動環境の整備（再掲） ○官民が一体となった地域連携型の防災体制の整備（再掲）

2-3 嬉野市のまちづくりの課題

嬉野市のまちづくりの原則として検討すべき「論点」と、これからの都市づくりにあたって踏まえるべき「視点」から、嬉野市に求められるまちづくりの取り組みを設定します。



1. コンパクトなまちづくり

日本社会は人口減少と少子高齢化の流れにあって、今後は右肩上がりの拡大型成長が期待できないことから、多様な都市サービスや都市活動機会の確保には、嬉野市の将来の都市規模や財政力、並びに既存の都市機能や都市集積を踏まえ、拠点地区の形成と各種都市機能の立地誘導によって、集約型都市構造への再編・再構築を図り、規模の小さい市場（ニーズ）を最大限に活用する必要があります。

○都市機能の重複・分散状況の是正

- ・重複する両町の施設の用途・機能の再編に合わせた土地利用の見直しが必要
- ・開発や都市機能の分散立地の抑制に向けた土地利用誘導が必要

○都市機能立地や都市活動機会の集約化と拠点形成

- ・都市全体の活動主体を対象とした都市機能を集積する拠点地区の整備が必要
- ・地域住民の日常生活の必需機能を集積する拠点地区の整備が必要

○都市機能・サービスや都市活動機会へのアクセス性の向上

- ・市内外の都市機能を結ぶ幹線道路網など交通基盤整備が必要
- ・公共交通網の充実と利用環境の整備が必要

○都市機能や土地利用の拡散の抑制

- ・都市づくり施策の共通化に向け都市計画区域の見直しが必要
- ・同一目的の施策に対する各種法制度や事業要件の再整理が必要

○既存の都市機能・集積の有効活用

- ・塩田、嬉野の両市役所庁舎を中心とした市民交流基盤の再構築が必要
- ・嬉野温泉の多面的利用と新たな需要創出に向けた開発誘導が必要

○既存市街地の再生・活性化

- ・嬉野温泉市街地における中心商店街の再生（商業の活性化）が必要
- ・嬉野温泉市街地などにおける空き家・空き地の跡地利用が必要

○嬉野温泉駅周辺の交通（交流）拠点性強化

- ・嬉野温泉駅を経由する公共交通網の整備が必要
- ・嬉野温泉駅における乗り継ぎ環境と施設整備が必要

○嬉野温泉駅と市内外各地とのネットワークの強化

- ・嬉野温泉駅を基点とした幹線道路網の整備が必要
- ・新幹線と接続する嬉野温泉駅の二次交通手段の充実が必要

○新幹線需要を呼び込む集客拠点づくり

- ・嬉野温泉駅周辺における都市の顔（玄関）づくりが必要
- ・嬉野温泉駅周辺において集客機能の立地に向けた都市基盤整備が必要

2. 持続可能なまちづくり

人口の減少や高齢化に際しても、将来にわたって安心して住み続けられる嬉野市であるためには、災害に強い安全な都市空間の形成や田園・自然環境の維持、就業・就学の機会の確保、消費・医療などの生活サービスの享受、そして文化的な豊かさや生きがいを実感できる暮らしが可能となるよう、住環境の改善に向けた都市基盤の整備や、雇用の創出や各種生活サービス機能の立地に向けた受け皿づくり（立地条件の整備）、各種市民交流の機会・仕組みづくりなどが必要となります。

○人口の減少傾向の抑制と少子・高齢化する人口構造の是正

- ・雇用の創出に向け企業立地に寄与する都市基盤整備が必要
- ・良好な住環境形成と生活機能立地に向けた土地利用誘導が必要

○本市で暮らしを営む上で必要な基礎的都市機能の維持

- ・生活関連機能（施設）の立地に向けた都市基盤整備が必要
- ・日常における生活行動と需要の集約を誘導する都市基盤整備が必要

○市民が参画できる社会の環境づくり

- ・市民（住民）主体の都市計画やまちづくりに対する支援が必要
- ・地域マネジメントに関する官民連携や地域協働の仕組みづくりが必要
- ・地域コミュニティの維持に向けた田園集落の住環境整備が必要

○人口減少と少子高齢社会に対応した生活環境づくり

- ・都市の規模縮小に合わせた地域維持の仕組み・体制づくりが必要
- ・日常生活における社会基盤のバリアフリー化が必要
- ・自然災害や都市の安全性の強化に向けた都市基盤整備が必要

○環境負荷の軽減に向けた公共交通の活性化

- ・公共サービスの利用における公共交通手段の利用利便性の整備が必要
- ・都市機能と公共交通を組み合わせ、需要を効率的に誘導することが必要

○風土を守り育てる条件や環境、体制の整備

- ・耕作放棄された農地や維持できなくなった森林の保全・管理の仕組みづくりが必要
- ・嬉野市の風景・景観を守り、育てる体制や制度の整備が必要

3. 自然と共生したまちづくり

地球規模で深刻化する環境問題への対応が叫ばれる中、特に温室効果ガスの発生を抑制した生活スタイルへの転換が求められますが、嬉野市は塩田川流域に広がる平野部や山の斜面で営まれている農業など、これまでも自然とバランスのとれた地域社会が形成されており、今後も嬉野市の特長として自然との共生がなされるよう、地場産業としての農業の振興（農地の保全）や、自然環境や景観に配慮した美しい都市空間の形成が必要です。

○塩田川及び流域の環境・景観

- ・塩田川流域における河川と一体的な地域づくりが必要
- ・嬉野温泉における塩田川と一体となったまちなみ整備が必要

○農林業及び農地・森林の保全と活用

- ・農林業の観光などへの多面的な利用が必要
- ・後継者不足の林業に代わり森林を保全する地域づくりが必要

○生活に身近な自然や緑の環境の充実

- ・既存公園の改修と利用に合わせた整備が必要
- ・市街地・集落内の宅地内緑の保全と緑化誘導が必要

○塩田川や唐泉山など両町に共通する自然資源の活用

- ・良好な自然的風景や眺望の保全に向けた規制誘導が必要
- ・塩田川などの自然の一体的な整備・管理に向け法制度の見直しが必要

○水と緑を活かした生活環境の形成

- ・市街地などにおける市民・事業者等の緑化の取り組み支援が必要
- ・水環境の保全に向けた下水道整備が必要

○田園居住における自然保全と生活向上の両立

- ・集落の住環境整備が必要
- ・集落の維持に向けた生活機能の整備が必要

4. 大交流時代のまちづくり

九州新幹線西九州ルートと嬉野温泉駅の開業をひかえ、都市間・地域間の交流と競争が拡大する時代において、市域を越えた広域的圏域からの人や財の流入を図り、活力ある嬉野市を創造するため、広域交流に対応した駅周辺のまちづくりをはじめ、温泉を核とした観光振興や、歴史・文化などの地域資源を活用した広域交流の促進など、活力と賑わいの創出に向けた地域の活性化が必要です。

○広域的圏域からの交流人口の受け入れ環境・基盤の整備

- ・産業（企業）や広域交流機能の立地に向けた受け皿となる都市基盤整備が必要
- ・誰もが利用しやすい都市基盤・都市空間の整備が必要

○観光振興に向けた歴史・文化資源の発掘・活用

- ・農業や地場産業などの体験観光に向けた環境整備が必要
- ・社寺仏閣など市内の歴史資源を活かすため景観整備が必要

○嬉野らしい生活文化に根ざした個性・魅力づくり

- ・長崎街道のまちなみを活かした都市環境整備が必要
- ・地域の特産品の市民生活への積極的な活用機会が必要

○人・財の流入を促す広域交流に対応した都市機能の整備

- ・都市計画道路の未整備区間の整備促進が必要
- ・嬉野温泉駅周辺において集客機能の立地に向けた都市基盤整備が必要（再掲）

○嬉野温泉駅利用拡大に向けたビジネス・観光需要の創出

- ・企業誘致に向けた都市基盤整備が必要
- ・周辺都市との広域観光の連携及び圏域整備が必要

○嬉野温泉駅を中心とした周辺都市とのネットワークの強化

- ・嬉野温泉駅の交通結節点機能強化に向けた都市基盤整備が必要
- ・嬉野温泉駅を基点とした幹線道路網の整備が必要（再掲）

5. 特長を活かしたまちづくり

地方分権や地域の自主性が求められる時代において、嬉野市が市民の誇りと愛着の下で、自立した都市を確立するため、塩田津に代表される長崎街道の名残の町並みや傾斜地につくられた棚田などの特長ある風景、特産物であるお茶や歴史ある温泉など、嬉野市が有する地域資源を活用することで、都市魅力と生活文化の向上を図り、社会的・文化的価値を創造・発信することが必要です。

○嬉野温泉の集客力の有効活用

- ・温泉の多面的利用に向けた再生が必要
- ・嬉野温泉を核とした市内観光ルートの開発・啓発が必要

○長崎街道の歴史的景観・文化資源の活用

- ・塩田津伝建地区におけるまちなみ整備の促進が必要
- ・嬉野温泉市街地における長崎街道を意識したまちなみ整備が必要

○茶畑・棚田の文化的景観（風景）の活用

- ・良好な棚田風景の形成・維持を踏まえた耕作放棄地の解消が必要
- ・茶畑や棚田とともに遠景を形成する山並み全体の保全が必要

○地域の魅力の発掘・活用に向けた取り組みの検討

- ・農業や地場産業の交流を中心とした多面的活用への支援体制が必要
- ・市民の主体的なまちづくりに対する支援が必要

○嬉野温泉と塩田津の歴史・文化資源の連携

- ・嬉野町と塩田津を結ぶ道路網の整備が必要
- ・嬉野温泉を核とした市内観光ルートの開発・啓発が必要（再掲）

○「うれしの茶」や焼き物などを活かした新しい地域創造

- ・生産地としてだけでなく、使う（消費する）文化の振興が必要
- ・農業などの地場産業と観光産業の連携が必要

○嬉野温泉市街地や塩田津伝建地区における観光機能の強化

- ・歩いて観光できる温泉街（嬉野温泉市街地）の整備が必要
- ・塩田津伝建地区における観光活用に向けた歴史的建造物の活用支援が必要

○観光振興に向けた歴史・文化資源の発掘・活用（再掲）

- ・農業や地場産業などの体験観光に向けた環境整備が必要（再掲）
- ・社寺仏閣など市内の歴史資源を活かすため景観整備が必要（再掲）

6. 安心安全のまちづくり

交流の促進が重要となる時代において、嬉野市は長崎街道の優れた歴史・文化的資産や嬉野温泉の集客機能に恵まれています。同時に人口の高齢化や交流圏の拡大・国際化を踏まえると、これからの魅力ある観光地づくりは、多種多様な観光資源だけでなく、防災面においても、災害に強く、また、災害に遭遇した場合でも安全が確保された安心できる観光地づくりが必要です。

○地域社会を支えるコミュニティの形成・維持

- ・ 市民や地域住民が主体となって進めるまちづくり組織が必要

○住み続けられるための安心の生活環境整備

- ・ 高齢者が孤立しないよう地域社会への参画機会を増やすことが必要

○塩田川流域の特徴を踏まえた総合防災対策の構築

- ・ 大雨に弱い地理条件を踏まえた多角的な治水対策が必要
- ・ 災害発生を前提に、被害を最小限に抑え、速やかに復旧させる対策が必要

○官民が一体となった地域連携型の防災体制の整備

- ・ 防災学習・情報機能を備えた防災センターの整備が必要（消防署の建替え）
- ・ 災害への即応能力としての消防団（民間ボランティア）の充実が必要

○交流の広域圏化に対応した安全な都市活動環境の整備

- ・ 観光案内と避難誘導のユニバーサルデザイン化が必要